

## インクルーシブな教育と特別支援教育コーディネーター ～どの子どもも過ごしやすい学校づくりを考える～

### I 団体の概要

本研究会は平成16年に発足し、初めは「特別支援教育ってなんだろう?」と困惑からのスタートだったが、そこからコツコツ実践を積み重ねてきた。

特別支援教育に携わる様々な学校関係の方が集まって、現場での実感を分かち合い、子供の目線に立ちながら、指導と連携の具体策を話し合い、明日の実践への活力を生む。そんな研究会を目指している。

### II 今年度の研究

多くの先生たちとの関わり合い、支え合いの中で進められていく特別支援教育。今年度は発達障害等の子供たちが過ごしやすい学校づくりについて、インクルーシブな教育の視点で理解を深め、特別支援教育コーディネーターとしてできることを考えていくことにした。

毎回、インクルーシブ教育に造詣の深い講師を招聘してお話を伺うとともに、参加者とのグループ協議を通して、児童生徒にとって過ごしやすい学校づくりについて、具体的な手だてを探っていった。

5月 春のセミナー 田中 博司氏  
(東京都公立小学校主幹教諭・本会研究部長)

8月 夏のセミナー 青山 新吾氏  
(ノートルダム清心女子大学准教授)

11月 秋のセミナー 高橋 浩平氏  
(東京都公立小学校校長)  
1月 冬のセミナー 武田 緑氏  
(学校 DE&I コンサルタント・Demo 代表)

### III セミナーの実施報告

#### 【インクルーシブ教育システムとは何か】

○人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み(障害者の権利に関する条約第24条より)

#### 【本会の考える通常の学級におけるインクルーシブな教育】

○どの子どもも過ごしやすい学校、教室、授業

インクルーシブ教育のとらえ方

本研究会がとらえるインクルーシブ教育

- 発達障害の可能性のある子ども 7.7% (2.7人/35人中)
- 特異な才能のある子ども 2.3% (0.8人)
- 不登校の子ども 1.0% (0.4人)
- 不登校傾向の子ども 11.8% (4.1人)
- 家にある本が少ない子ども 29.8% (10.4人)
- 家で日本語をあまり話さない子ども 2.9% (1.0人)

(内閣府2022「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」)

↓

- インクルーシブ「な」教育
- どの子どもも過ごしやすい学校・教室・授業

インクルーシブ教育のとらえ方

本研究会がとらえるインクルーシブ教育

インクルーシブ教育システムを推進する上で重要な3つの視点

- 通常の学級における指導・支援の充実
- 連続性のある多様な学びの場の活用
- インクルーシブな学校(学級)づくり

令和6年度東京都立特別支援学校等712「インクルーシブ教育の推進」 佐藤利正先生(国立特別支援教育総合研究所)の資料より作成

【私たちが考えるインクルーシブな教育の姿】(グループ協議より)

「きちんと居場所がある」、「多様な子供同士の関わりがある」  
 「満足感・充実感・達成感を得られる環境」、「一人ぼっちに誰も  
 ならない」、「存在を誰かが認めてくれる」、「言いたいことが言  
 える」、「子供の声を聞く(自己選択・自己決定の機会がある)」  
 「評価項目を事前に示すことで、子供たちが安心して学習に取り  
 組むことができる情報提示(評価に関すること)」、「受け身では  
 なく、能動的な感覚をもたせる」、「子供たち同士が尊重し合  
 えること。そのためには先生同士が尊重し合えることが大切」、  
 「子供の居場所があり、元気に登校できること」、「社会に出た  
 ときのことまで長い目で考えて行う教育」、「いろいろな子(感覚過  
 敏、貧困、外国籍、マイノリティ等)がいることを教員が理解し、環  
 境面で配慮する」、「子供同士が理解し合い、尊重し合う」、「子  
 供たち同士が主体的に関わり合い、マイノリティの子供をスルー  
 しない」、「教員同士も互いの職務を理解し合う」

【インクルーシブな教育のために今、できること】

(グループ協議より)

○「分かった!」「できた!」という喜びを得られる授業や支援を行  
 う。また、特別活動などを通して、お互いに支え合う子供たちを  
 育てる教育を行う。

OOJTなどを通して、校内全体で特別支援  
 教育の理解を深める。また、通常の学級の  
 担任と特別支援学級・特別支援教室との  
 連携を強化する。

○校内での教職員同士の支え合い、つながり、  
 円滑なコミュニケーションを大切にす。



Ⅳ 参加者の声

- 答えを見付けるといより一緒に考え合う姿勢が特別支援教  
 育コーディネーターとしてとても大切であると思いました。研修  
 会での学びを職務に活かしたいと思います。(春のセミナー)
- 青山新吾先生のお人柄がよく伝わり、内容が分かりやすく、時  
 に面白く引き込まれながらお話を聞きました。(夏のセミナー)
- 子供たちに寄り添っていくことの大切さを改めて感じる事が  
 できました。また、たくさんの先生方とお話する中で、みなさん  
 同じようなことに悩まれ、工夫されていることを聞き、一人で  
 はないと気付くことができました。(夏のセミナー)
- 教育の目指す方向性について、「多様性を受け入れること」と  
 「できない子をほったらかしにしないこと」が何より大切だと思  
 いました。高橋浩平先生のお話が実践に基づいているので心  
 強く思いました。(秋のセミナー)

＜令和6年度連絡先＞

団体名		東京コーディネーター研究会
代表者	所属	町田市立鶴川第一小学校
	職 氏名	校長 小林 繁
	連絡先	042-735-1234
事務局	所属	豊島区立池袋第一小学校
	職 氏名	主幹教諭 吉成 千夏
	連絡先	03-3916-3435
団体ホームページ	URL	<a href="https://tckenkyu.com">https://tckenkyu.com</a>
	二次元コード	